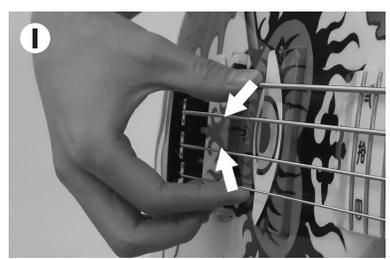


**注意点1**

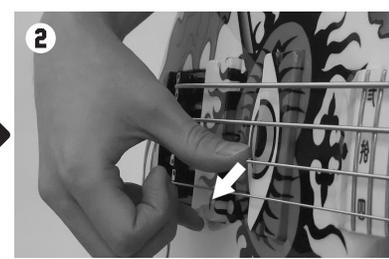
**右手**

**右指を少し浮かせて弦に触れないように注意!**

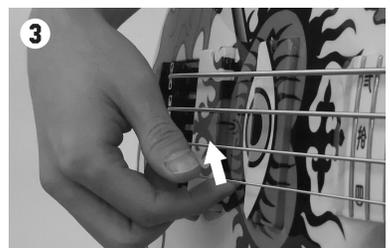
ここでは、チューニング時に誰もが利用するナチュラル・ハーモニクスを使ったやや特殊なコード・プレイを練習しよう。メイン・フレーズは、音を伸ばしながらポジション移動することがポイントになるため、ピッキングに気をつけないといけない。通常のフィンガー・ピッキングでは、ピッキング後に振り抜いた指が低音弦に当たってしまうことがある(このようにピッキング後にミュートを掛けられることが指弾きの利点になるが、このフレーズでは逆に問題点になってしまう)。よって、ピッキング後は、指を少し浮かせて、弦に触れないように心掛けよう(写真①~③)。和音の響きが命となるフレーズのため、音が途切れないように弾きこなすべし!



① メイン・フレーズ1小節目。まずは親指と人差指を使う。



② 続いて、2弦を親指でピッキングして……



③ 1弦を人差指で鳴らす。右指が弦に触れないように注意!

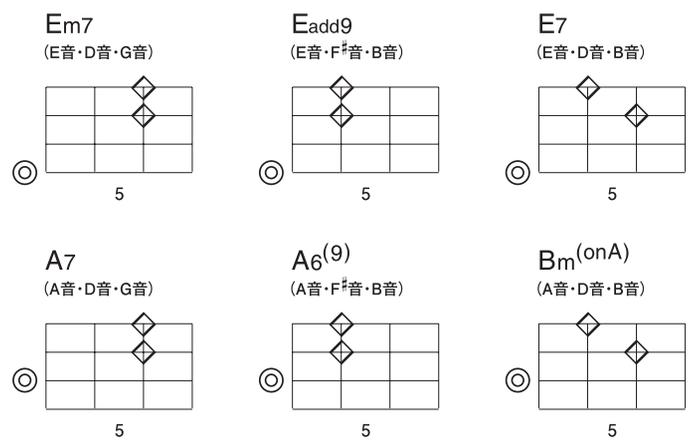
**注意点2**

**理論**

**ハーモニクスを活用したコードを覚えよう**

ナチュラル・ハーモニクスと実音を活用した代表的なコードを紹介しよう。図1は4弦開放と3弦開放を使ったパターンだが、どれも3音のみで構成されているため、コード・ネームの解釈は分かれる(また、アンサンブルで考えると、上物のギターなどによってコード・ネームが変わることもある【註】)。しかし、コードネームの一例として、ぜひ頭に入れておいてほしい。ナチュラル・ハーモニクスが出るフレットは、基本的に3(少し4フレットに入ったくらい位置)・4・5・7・9・12などになる。したがって、ナチュラル・ハーモニクスを活用するコードで使えるルート音やコード・ネームは、それほど多くないのでしっかり覚えよう。

図1 ナチュラル・ハーモニクスを活用したコード例

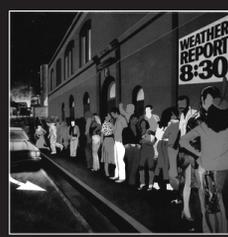


~コラム21~

**将軍の戯れ言**

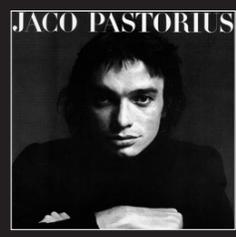
ジャコ・パストリアスは、“ジャズ界のジミヘン”と称されるほど革新的で、ロック・スピリット溢れるベーシストだった。フレットレスでありながらフレットドのようなフレーズ、ディレイやディストーションなどのエフェクターを大胆に使ったソロ、そして人工ハーモニクス奏法など、ジャコのプレイにはどれも強烈なインパクトがある。ジャコを聴いたことがない者は、まずはウェザー・リポートのライブ盤『8:30』の「スラング」や、1stソロ作に収録された「トレイシーの肖像」をチェックしてほしい。エレクトリック・ベースの革命者の魂を感じ取るのだ!

**著者・MASAKI、かく語りき  
ジャコ・パストリアス編**



**ウェザー・リポート**  
『8:30』

1978年に行われたツアーのライブ盤。ジャコの縦横無尽に動き回るフレージングと、緊張感溢れるプレイがとにかくすさまじい。



**ジャコ・パストリアス**  
『ジャコ・パストリアスの肖像』

ジャコの1stソロ作。メロディックなソロから速弾き、さらにハーモニクス奏法など、革新的で多彩なプレイが凝縮した1枚。

【上物のギターなどによってコード・ネームが変わることもある】コード・ネームは、本来はバンド・アンサンブル全体を考慮して付けられる。しかし、譜面の見やすさなどを考えて、あえてテンション音などを省略することが多い。